京大広報

No. 507　1996. 11

本学吉田局でSCS事業記念式典を見守る関係者（右のスクリーンには，吉田局より発信された映像が放送教育開発センター（HUB局）経由で受信されている。）　―関連記事本文126ページ―

目次

京都大学創立百周年記念事業の
進捗状況について　総長　井村　裕夫……124

〈大学の動き〉
平成8年度日本語・日本文化研修留学生の
受け入れ……125
SCS（衛星通信大学間ネットワーク）の
運用開始……126

〈日誌〉……126

〈訃報〉……127

〈文化交流〉
ベルギー・ルーバン市滞在記　加藤　博之……127

〈随想〉
前世紀末の都市直下地震
名誉教授　久保寺　章……128

〈洛書〉
生殖医療と倫理　森　崇英……129

〈公開講座〉
―公開講座終了報告―
木質科学研究所公開講座
「21世紀に向けての木材」……130

〈資料〉
平成7年度予備的経費配分実績……131
人事院勧告の取り扱いに関する
国立大学協会の要望書……131

〈お知らせ〉
大学院文学研究科公開シンポジウムの開催……132
能楽鑑賞会（第40回）の開催……132

京都大学広報委員会

京都大学創立百周年記念事業の進捗状況について

本年も残り少なくなり，京都大学が創立百周年を迎える1997年（平成９年）が近づいてまいりました。大学では創立百周年記念事業推進室を設け，精力的に準備を進めてまいりました。

京都大学の創立記念日は６月18日でありますが，例年そのころは，雨の日が多いため，百周年記念式典は11月２日に行うことになりました。翌３日には記念講演会と記念シンポジウムを計画しています。記念講演の演者としては，メッセンジャー RNA の発見者である Sydney Brenner 博士と，もう一人，人文・社会系の外国人学者を予定しています。また記念シンポジウムでは森島通夫，藤澤令夫，利根川進，広中平祐の各氏をお招きし，本学の教官も交えて20世紀から21世紀への課題を議論していただくことになっています。記念式典の前日には記念音楽会を計画しています。

百周年を祝う一つの意義は，過去を，とくに先人の努力の跡をふり返り，大学の第二の世紀に向けてのしっかりした展望を見い出すことにあると言えましょう。百年史の編集や，記念写真集の刊行準備も着々と進行しています。それらを通じて京都大学が培ってきた自主独立と創造の精神を学び，それを一層発展させるべく覚悟を新たにしなければなりません。

大学の使命は言うまでもなく教育，研究にありますが，同時に社会への奉仕を忘れてはなりません。幸いにして京都大学は，今日まで市民の方々の温かいご支援を受けてまいりました。また卒業生をはじめ，多くの方々のご援助のもとに，様々な事業を発展させてまいりました。財団法人京都大学後援会がその一例であります。従って百周年は現在大学に在籍するものだけでなく，市民や卒業生の皆さんとともに祝いたいと考えています。そのための計画も，決定次第広報を通じて報告する予定であります。

創立百周年記念事業推進室の看板を掲げる
井村総長・黒川事務局長

百周年の記念事業のための募金については現在実施中でありますが，経済的な不況の中にあって必ずしも順調でなく苦慮しています。募金が成功すれば，後援会の事業を拡大することが可能であり，将来の大学の発展に益するところも大きいと思います。百周年記念事業の募金に是非ご協力いただきたく，重ねてお願い申し上げます。

平成８年10月21日

総長　井　村　裕　夫

大学の動き

平成８年度日本語・日本文化研修留学生の受入れ

昭和57年度から，本学では「日本語・日本文化研修留学生制度」（『京大広報』No. 240，1982. 10. 1参照）による留学生を受入れているが，平成８年度は９ヵ国から12名を留学生センターで受入れることになり，10月16日（水）留学生センターにおいて開講式が行われた。

また，平成７年度の留学生11名に対する修了式が９月４日（水）留学生センターにおいて開催され，修了証明書が授与された。

本年度の研修の概要は，次のとおりである。

平成７年度日本語・日本文化研修留学生修了式

日本語・日本文化研修留学生に対する教育課程，授業計画及び授業時間数

	授業科目	授業時間数 第一期（10月～３月）	授業時間数 第二期（４月～９月）	授業時間数 計
		時間	時間	時間
〔Ⅰ〕総合	日本語・日本文化ゼミナール	30	30	60
〔Ⅱ〕日本事情	① 日本事情(A)	32	26	58
	(ア) 日本の社会に関する概説	(10)		(10)
	(イ) 日本の法政に関する概説	(12)		(12)
	(ウ) 日本の経済に関する概説	(10)		(10)
	(エ) 各分野の諸問題		(26)	(26)
	② 日本事情(B)	50	42	92
	(ア) 日本文学	(20)	(22)	(42)
	(イ) 日本文化・歴史（風土を含む）	(30)	(20)	(50)
	小計	82	68	150
〔Ⅲ〕特別教育	① 現代産業及び現代文化に関する参観・研修等	60		60
	② 伝統産業及び伝統文化に関する見学等		60	60
	③ 特別講義		30	30
	小計	60	90	150
〔Ⅳ〕日本語	① 日本語概説	60	60	120
	② 日本語強化コース	240	80	320
	小計	300	140	440
	合計	472	328	800

（学生部）

SCS（衛星通信大学間ネットワーク）の運用開始

SCS（スペース・コラボレーション・システム）が完成し，本年10月から運用を開始した。SCS は，衛星通信大学間ネットワークによる双方向デジタルテレビシステムであり，遠隔講義や遠隔会議などに利用される。

平成７年度予算により，24国立大学，３高等専門学校，10大学共同利用機関に51の VSAT（Very Small Aperture Terminal）局が整備され，本学にも４VSAT 局（吉田，宇治，熊取，犬山）が設置された。

さらに，来春までに９国立大学，３高等専門学校に 12局の VSAT 局が増設され，SCS 事業の充実が図られることになっている。

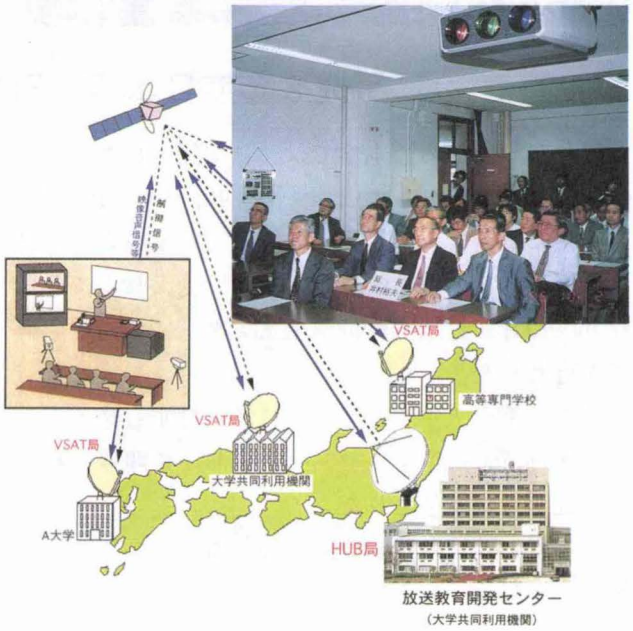
この運用開始を記念して，さる10月２日，午前11時から，文部省放送教育開発センター（千葉市）と各 VSAT 局を結んで式典が行われた。本学吉田局となる情報工学教室には，井村総長を始め多数の関係者が出席し，120インチと80インチの大型スクリーンに映し出される式典の様子を見守った。

午後からは記念シンポジウムが開催され，東大局から吉川東大総長の基調講演の後，各局を結んでパネル討論会が実施された。

本学においては，スペース・コラボレーション・システム事業委員会を設置して利用希望の調整を図り事業を推進することとしており，既に10月４日から利用が開始されている。システムは，６ヵ月ごとに予め利用日時を固定する第一次申込と，第一次申込分の回線割当後，利用日の１週間前までに予約して随時利用する第二次申込の２通りの方法によって，利用できる。

利用に関する問い合わせは，事務局企画室（内線2088）までお寄せいただきたい。

（京都大学 SCS 事業委員会委員長　池田　克夫）



SCS 事業概念図

日誌　1996年９月１日～９月30日

９月２日　総合人間学部公開講座「環境としての自然・社会・文化―創造的共生に向けて―」（４日まで）
４日　平成７年度日本語・日本文化研修留学生修了式
９日　京都大学主任研修（12日まで）
13日　ドイツ連邦共和国　ベルリン自由大学 Johann Wilhelm Gerlach 学長他２名来学，総長及び関係教官と懇談
〃　同和・人権問題委員会
〃　附属図書館商議会
18日　国際交流委員会
〃　国際交流会館委員会
19日　チュニジア共和国　高等教育省　Ridha Ferchiou 官房長他１名来学，総長及び関係教官と懇談
24日　評議会
27日　スロベニア共和国　科学技術省 Peter Volasko 事務次官他７名来学，総長及び関係教官と懇談
〃　学位授与式

資料

平成７年度予備的経費配分実績

（職員旅費）

区分	金額	区分	金額
	千円		千円
1．予算額	36,222	2．配分額	36,222
当初財源	39,104	(1) 特別事業旅費	8,314
節約額	△ 3,071	(2) 入学試験経費	1,208
欠員充員分より繰入	189	(3) 各部局への補足	26,700

（校費）

区分	金額	区分	金額
	千円		千円
1．予算額	543,418	(3) 厚生補導費	1,479
当初財源	545,012	(4) 入学試験経費	21,897
節約額	△21,639	(5) 本部運営費	41,177
欠員充員分より繰入	20,045	(6) 管理運営費	92,780
2．配分額	543,418	庁舎等管理運営費	45,587
(1) 継年的補足経費	38,895	施設等整備	47,193
(2) 教育研究経費	41,829	(7) 各部局への補足	305,361
教育研究用図書整備	1,452		
教育研究用設備費	6,659		
教育研究用事業費	33,718		

人事院勧告の取扱いに関する国立大学協会の要望書

このたび国立大学協会会長から，人事院勧告の取扱いに関し，以下のとおり文部大臣，大蔵大臣及び総務庁長官宛に要望書を提出し，その趣旨に則り配慮方を要望した旨報告があった。

平成８年９月18日

国立大学協会会長

吉川弘之

人事院勧告の取扱いに関する要望書

人事院による国家公務員の給与勧告が，労働基本権制約の代償措置として，また国家公務員の給与水準を適正に維持する制度として定着し，公務の能率的運営と公務員労使関係の健全性の実現に大きく寄与していることは周知の事実であります。

このところは，関係者の努力により，勧告どおり給与の改定が行われ，これにより各大学においても職員の勤務意欲の向上や，労使の信頼関係の保持等の点で好ましい影響がもたらされております。

もとより，当国立大学協会は，国の財政が極めて厳しい状況におかれていることも十分に承知しているところであり，各大学においては，過去数次にわたる厳しい定員削減の中で行政経費の節減・抑制について不断の努力を重ねており，加えて第９次定員削減が実施されれば，なお一層の努力が求められることとなります。

現在，国立大学においては，高等教育及び学術研究の高度化の積極的推進が最重要課題とされており，これが国民的期待でもあると考えます。また，平成７年11月15日公布・施行された「科学技術基本法」では，国は，研究者等の職務がその重要性にふさわしい魅力あるものになるよう，研究者等の適切な処遇の確保に必要な施策を講ずるものとしているところであります。しかしながら，国立大学における教育研究環境としての研究費，施設設備，教員の給与についてはなお改善が必要な状況にあり，上記の課題に積極的に取り組むためには，大学教職員の適切な処遇を確保することが必要不可欠であります。このことがひいては優秀な人材を確保し，将来にわたる我が国の高等教育及び学術研究の進展に寄与するものと確信いたします。

上記の理由により，国立大学協会は，人事院勧告が，早期完全実施されることを強く要望する次第であります。

お知らせ

大学院文学研究科公開シンポジウムの開催

文学研究科では大学院重点化の実現を記念して，公開シンポジウムを開催します。御来聴を歓迎します。

日　時　平成８年11月30日（土）午前10時から

場　所　文学部新講義棟２階講義室

内　容

第１部　（10時～13時）

創設期の京大文科――東洋学者群像　（司会）礪　波　　護　教授

「狩野君山　直喜」　高　田　時　雄　助教授（言語史）

「三浦周行」　藤　井　譲　治　教授（日本史学）

「内藤湖南　虎次郎」　礪　波　　護　教授（東洋史学）

第２部　（14時～17時）

西欧における表象文化――文学と芸術の間　（司会）吉　田　　城　教授

「レオナルドの絵に込められた謎とその謎解きの試み」

齋　藤　泰　弘　助教授（イタリア文学）

「視覚の誘惑――「ペルセウスとアンドロメダ」説話の絵画化をめぐって」

中　村　俊　春　助教授（美学美術史）

「中世芸術とマルセル・プルーストの出会い」

吉　田　　城　教授（フランス文学）

「風景の中の運動――ウラジミール・ナボコフと現代芸術」

若　島　　正　助教授（アメリカ文学）

（大学院文学研究科）

能楽鑑賞会（第40回）の開催

平成８年度能楽鑑賞会を下記のとおり開催します。

本学学生・教職員の来場を歓迎します。

記

日時　平成８年12月11日（水）

午後６時30分開演

８時45分終演予定

会場　京都観世会館

京都市左京区岡崎円勝寺町44

☎771―6114

（東山仁王門を東へ約300メートル）

演目狂言「蝸牛（かぎゅう）」　茂　山　千五郎

茂　山　千　作

他

能楽「砧（きぬた）」　片山　九郎右衛門

片　山　伸　吾

他

入場無料

備考：学生証又は職員証等を持参して下さい。

定員は550名先着順とします。

（学生部）